

1 令和5年度埼玉県学力・学習状況調査の結果

「埼玉県学力・学習状況調査」とは

- ・学力の伸び（経年変化）などを、継続して把握することのできる調査。
- ・小学校第4学年から中学校第3学年まで、同一の児童生徒を継続して調査し、学力の伸びを把握することができる。

(1) 学力を伸ばした生徒の割合（％）

		国語	数学	英語	
1年	本校	66.2	54.5		
	県平均	60.5	58.9		
2年	本校	37.9	59.7		
	県平均	58.8	62.6		
3年	本校	61.2	57.8		78.8
	県平均	55.6	65.2		68.7

(2) 質問紙調査の結果

02「規律ある態度」達成目標 参照

2 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

「全国学力・学習状況調査」とは

- ・義務教育の機会均等とその水準維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教科施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するために実施。
- ・調査対象は、小学校第6学年及び中学校第3学年。

(1) 平均正答率（％）

	国語	数学	英語
本校	69	53	51
埼玉県（公立）	71	52	46
全国（公立）	70	51	46

(2) 質問紙調査

03 全国学調生徒質問紙 参照

3 学力・学習状況調査の分析

県学調の結果より、特に学力の伸びた学年・教科は、3年英語（78.8％）であった。主な要因として、以下の2点が挙げられる。

- ・英語における学力の伸びと、読むこととの関係性が強い。
- ・読むことは知識・技能との関係性が強い。

このことから、単元を通して、既習知識に繰り返し触れさせることで、基礎的な知識・技能を定着させることが、学力の伸びを向上させることに有効であると考えられる。

4 結果の分析を踏まえた本校学力向上の取組

04 学力向上プラン 参照